

地球上では、環境問題についてのアクションかとも盛んだ。海や陸地に関する環境問題の話題を毎日のように耳にするし、学校の授業でも習う機会が多い。毎日の衣食住すべてにおいて、買う段階から使用し廃棄するまですべての工程で環境の事を考えながら生活していると言っても過言ではない。

宇宙ではどうだろう。宇宙空間を直に目にすることが出来る人が限られている上に、人類が全貌を知らない遠く離れた場所での出来

事と考えていないだろうか。僕自身、これまで「宇宙イコール別世界」くらいの感覚しか持っていないが、宇宙エレベーターが技術的には実現可能で夢物語ではないことや、民間人が宇宙旅行に行けるサービスが始まっていることをニコラスなどで目にとると、宇宙が遙か彼方の場所ではなく身近な場所だと気が付かされる。

そして、改めて自分の身の回りを見てみると、携帯電話もテレビの番組も、出かける前

に見る天気予報も、世界の国々の安全保障も
宇宙空間にある沢山の衛星とは密接な関係が
あるのだと分かる。

一方で、近年僕たちの生活を支えている大
事な衛星たちが破壊される危機に連日さらさ
れているというのをニュースなどで知って、
驚くと共に危機感を抱いた。

3
もし僕が宇宙に行ってみるとしたら、
れいで住んでいるみんなが安心して暮らして
いる惑星”に行きたい。水も空気も十分にあ

4
る、とても恵まれた環境である地球で僕らは
幸せに暮らしているはずなのに、報道などで
実際に目にするのは人々が互いを傷つけ合っ
ているニュースがとても多い。胸を張って
安心して暮らせる」と答えられる惑星に行っ
てみたい。気候変動や生態系の変化などによ
って大きく変わってしまう前の、かつての地
球のような惑星を見てみたい。

僕がその惑星で取り組んでみたいことが三
つある。まずは、地球を取り巻くおびただし

5

い数のスペースデブリをゼロにすることだ。
 使用済みや故障した人工衛星、ロケットの部
 品などが不要な人工物体（スペースデブリ）
 となり、そのデブリが軌道にある運用中の
 衛星に衝突すると、衛星が壊れたり爆発した
 りして、更なるデブリとなる問題が起こっ
 ている。宇宙航空研究開発機構（JAXA）の
 サイトによると、スペースデブリの数はなん
 と現在地上から追跡されている十センチメー
 トル以上の物体で約二万個、一センチ以上は

6

五十〜七十万個、一ミリメートル以上は一億
 個を超えると言われていた。そして、
 その大量のデブリが衛星や他のデブリなどに
 衝突する場合は、ピストルの十倍以上の速度
 である時速十〜十五キロメートルほどの超高
 速でぶつかるため、数えきれない無数の新た
 なデブリが発生したり、ミッションを遂行で
 きない可能性がある」とも記してあった。

僕は、この現状を知った時にとっても驚いた。
 地球の周りにこんなにゴミがあったら、せつ

かく宇宙に行っても地球が汚い星に見え
 思ったからだ。実際に、デブリを回収して減
 らしていく取り組みが世界各国で行われてい
 る。しかし、大きなデブリを一つ回収するの
 にもお金と時間と人員が要る上に、たくさん
 の小さなデブリは回収が極めて困難だとい
 う。また、せっかくデブリを回収するシステ
 ムを打ち上げても、宇宙空間でデブリとぶつ
 かってしまったら新たなデブリが生まれ、回
 収することか困難になり、デブリを回収す
 るは

か新たなデブリを生み出してしまいう可能
 性がある事も知った。

だからこそ、僕はデブリがゼロの惑星へ
 行って、そのきれいさや美しさ、危険な
 塵も心配の要らない安心して暮らせる惑
 星の良さを実際に体験して、その良さを地
 球の家族や友達みんなに知らせたい。こ
 れが、僕が惑星に行って取り組みたい事
 の二つ目だ。

地球というひとつの星がゴミだらけにな
 りつつある現状の中で、さらに地球の周
 りまで

もゴミが増え続けている。同じ地球の至る所では、深刻な問題を抱えていて、生きることすらままならない人たちがたくさんいる。

三つ目に、その星で最も取り組んでみたい事は、人が傷つけ合わない世界をみんなで協力して作り上げることだ。人が嫌がる事や悲しむことをしない世の中作りというのは、太古の昔から永遠の課題のように言われているが、実はとてもシンプルで、互いの心かけ次第だと思うので、案外簡単に実現できるのではないかと思っっているし、心から願っている。

僕たちがまだはっきりにした全容を知らない宇宙で、僕は新たなことに挑戦したい。それを実現に向けて取り組み始めることで、僕たちはなから実現不可能と諦めていたような、新たな世界を作れることを期待して問題解決に取り組みたい。果てしない先にも限りがある宇宙だからこそ、僕たちは地球というかけがえのない僕らの星を大切にする必要がある。と再認識した。